

浜名湖をめぐる研究者の会 第27回ワークショップ開催のお知らせ

2018年10月

各位殿

拝啓、秋も深まってきましたが、皆様方におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

「浜名湖をめぐる研究者の会」は、浜名湖と周辺地域の様々な研究情報の交流の場として、毎年12月に東京大学大学院農学生命科学研究科附属水産実験所で開催されてきました。例年この会には大学の研究者だけでなく、自治体、民間の研究機関、中学、高校の生物・科学部、在野の研究者など様々な方が参加しています。そして発表は自然環境、環境を演出する生物、さらには人間活動を含めた地理的なものまで、バラエティーに富んだ内容のワークショップです。

さて、本年度においても、「浜名湖をめぐる研究者の会第27回ワークショップ」を開催することとなり、別紙のとおり実施要領を決めましたので、ご案内申し上げます。例年のように活発な会となるよう、大勢の皆様の参加を期待しております。参加・発表の申し込みは郵送、Fax、またはメールで、**11月15日までに**事務局宛にお願いします。なお、参考までに昨年度のプログラムを同封いたします。

敬具

浜名湖をめぐる研究者の会 事務局

〒431-0214

静岡県浜松市西区舞阪町弁天島 2971-4

東京大学大学院農学生命科学研究科附属水産実験所

Fax: 053-592-2822

E-mail: [ayuka@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp](mailto:ayuka@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp)

浜名湖をめぐる研究者の会 第27回ワークショップ

日時： 2018年12月1日（土曜日）14時～17時頃まで  
17時30分から、簡単な懇親会（参加費1000円＋持込大歓迎）を予定しています。

場所： 東京大学大学院農学生命科学研究科附属水産実験所  
研究棟1F学生実習室（ポスター掲示と口頭発表）

受付： 2018年12月1日 13時から

参加申し込み：郵送、Fax、またはメールで、**11月15日までに**お願いします。

申し込み先：〒431-0214 静岡県浜松市西区舞阪町弁天島2971-4  
東京大学大学院農学生命科学研究科附属水産実験所 事務局 宛  
Fax：053-592-2822  
E-mail：[ayuka@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp](mailto:ayuka@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp)

申し込み方法：お名前、所属、ご住所（連絡先）、発表の有無、発表がある場合にはそのタイトル、宿泊の希望の有無などについてお知らせ下さい。郵送、Faxの場合には4枚目の用紙をご利用下さい。

発表形式：発表者は、ポスターの掲示と口頭発表を行います。要旨集用の原稿と口頭発表用のスライド（USBメモリー）は、当日、受付に提出してください。  
発表時間は3分でお願いします。

講演要旨：講演要旨の形式は特に定めていませんが、大きさはA4版、ページ数は4ページ以内として下さい。講演要旨は後日、印刷・製本の上、ワークショップ参加者に配布します。内容はポスターそのままでも結構ですが、オフセットモノクロ印刷のため、カラー原稿の色は反映されません。

- 研究発表要項 -

1. ポスターの掲示

12月1日14時までに、こちらで準備したパネルにポスターを掲示して下さい。ポスターは翌日事務局が撤去しますが、持ち帰りたい掲示物は当日中に発表者の手で撤去して下さい。ポスターの内容と形式は自由ですが、次のことを御考慮下さい。パネルの大きさは750×1150mm、下地はコルクボードです。パネル左上に発表番号(100×70mm)がはってありますので、定められた番号のパネルを使ってください。発表番号が見えるように掲示をお願いします。

2. 口頭発表

口頭発表は12月1日14時より始めます。(口頭発表の前にポスターの掲示を必ず終わらせてください。)発表時間は3分ですので、研究の概要の紹介にとどめてください。口頭発表の場では質疑は行いません。発表用のスライドはマイクロソフトパワーポイントで作成して下さい。パワーポイントファイルを入れたUSBメモリーは、各自、水産実験所までご持参下さい。

スライドを使用せずに発表を希望される方は、事前に事務局にご連絡ください。

3. 質疑、討論

口頭発表終了後、ただちにポスター掲示前で行います。それぞれのポスター前で意見交換を行ってください。

浜名湖をめぐる研究者の会 第27回ワークショップ参加申し込み

氏名

所属

住所（連絡先：変更があった場合や、現在の送付先住所が間違っている場合、お願いします）

電話

Fax

E-mail アドレス

発表の有無

発表希望 （ 有り 無し ）

発表題目・発表者氏名・所属（連名での発表の場合は全員の氏名所属）

懇親会参加の有無 （ 有り 無し ）

参加の場合 出席人数 人

宿泊の希望 （ 有り 無し ）

月 日 から 月 日 まで

宿泊者人数 人

申し込み頂きましたお名前、ご住所等の個人情報、当事務局において厳重に管理するとともに、浜名湖をめぐる研究者の会に関するご案内に使用させていただきます。

## 第26回浜名湖をめぐる研究者の会プログラム

2017年12月2日

1. 浜名湖における明応地震（1498年）の津波による塩水化は本当にあったのか？  
瀬戸浩二・香月興太（島根大汽・エスチュアリー研）・佐藤巧・藤井悠史（島根大汽・総合理工）・山田和芳（ふじのくに地球環境史ミュージアム）
2. 佐鳴湖湖心部における植物プランクトン量の季節変化  
木本尋也・疋田将大（浜松大平台高自然科学系列）
3. 三河湾奥、豊川河口干潟（中州）における底生生物の出現種数、生息密度及び現存量の変動  
—2011～2017年の市民参加による干潟調査結果—  
野田賢司（愛知大学総合郷土研究所）・加藤正敏（みなと塾）
4. 海岸林の管理  
井上淳（東大生態水文）
5. 福島第一原発周辺海域における放射能汚染調査（予報）  
鈴木譲（NPO法人いわき放射能市民測定室たらちね）
6. アカメガシワ種子を運んだ犯人は誰だ！ ～大きさを犯人を特定～  
小見山尚大・伊藤信一（浜松学芸中・高）
7. クマムシが好きな場所はどこ？ ～in our school～  
中山将至・伊藤信一（浜松学芸中・高）
8. プラナリアは寂しがり屋？ ～住居としての石の価値～  
石田耕太・伊藤優・伊藤信一（浜松学芸中・高）
9. サルカニ合戦は本当か？ 陸ガニが種子をまく森  
伊藤信一（浜松学芸中・高）
10. ヒメハゼの感覚と感情について  
藤田匡信（浜松市立浜名中）
11. 淡水フグ *Pao suvattii* の成長と眼状紋の出現  
土井啓行・棚田麻美・宮川訓・小畑洋（NIFREL）・酒井治己（水産大学校）
12. 住宅に囲まれた「天神森」の環境への役割について  
山田青（静大教育学部附属浜松中）
13. 浜松でジオパークを実現するために本校が取り組んだこと  
大場れな・柿本優里・倉田萌未・松本紗弥（浜松大平台高自然科学系列）
14. アユ釣り人の顧客満足度調査  
木南竜平（静岡県水技研富士養鱒場）
15. メーリングリスト組み込み型「市民環境ジャーナル」の創刊 —東海エリアでつながる討論誌  
井上正男（佐鳴湖シジミプロジェクト協議会）

16. ミシシippアカミミガメをとって食べる～佐鳴湖での捕獲と有効利用の活動報告  
夏目恵介・小林芽里・松浦修一・西岡愛香・ロビンス小依・戸田三津夫（昆虫食倶楽部）・長野裕紀（浜松大平台高）・浜松大平台高の生徒のみなさん
17. 佐久間ダムの機能を保ちつつ、天竜川を解放する提案 戸田三津夫（静大工）
18. New Index of Organic Pollution for Brackish Lake using BOD and COD-Cr  
Adelia Anju Asmara（静大院総合）・加藤幹也（静大工）・小川竜平（静大院総合）・戸田三津夫（静大工）
19. 佐鳴湖の水を用いた BOD 測定時の有機物の分解特性  
加藤幹也（静大工）・Adelia Anju Asmara・小川竜平（静大院総合）・戸田三津夫（静大工）
20. 次世代シーケンサーによるシロウオの分子系統地理解析  
佐藤耕平（東大水実）・小北智之（福井県大）・菊池潔・平瀬祥太郎（東大水実）
21. トラフグのヘテロボツリウム症に関する遺伝育種学的研究  
林子杰・佐藤茉奈・水野直樹・菊池潔（東大水実）
22. 最近のウナギ研究あれこれ 塚本勝巳（日本大学）